



慶應義塾大学ビジネス・スクール

コロナ禍に伴う病院の経営的課題： 2020年第1～2波における対応から

2020年9月9日、千葉大学医学部附属病院（以下、千葉大学病院と略）に、通算100症例目となる新型コロナウイルス感染症の患者が入院した。同院では、2月に最初の患者を受け入れて以来、県内外の要請に応えて診療にあたり、結果的に院内感染を生じることなく現在に至っている。新型コロナウイルス感染症の治療を行ないながら、大学病院に求められる通常の高度急性期医療を併行して実施することにも病院全体が順応しつつある。しかし、4～9月の医業収益は、合わせて前年比でマイナス11.4億円となり、政府による一定の補填が見込まれるとはいえ、経営上の課題は山積している。経済活性化の必要に伴って、全国的に行動制限の緩和が見られることもあり、これから冬を迎えるにあたり再び流行の拡大も懸念される。このような環境の中、千葉大学病院は、地域医療における“最後の砦”としての役割をどのように果たしていくべきであろうか。

新型コロナウイルス感染症

2020年1月6日、厚生労働省は「中華人民共和国湖北省武漢市における非定型肺炎^[1]の集団発生に係る注意喚起について」と題する通知を発出した。2019年12月に武漢市衛生健康委員会から同市における非定型肺炎の集団発生について発表があり、この肺炎の原因や詳細は不確定のため、武漢市に滞在歴を有し呼吸器症状を発症した患者が受診した場合は院内感染対策を徹底することを各医療機関へ周知するものであった。同9日、世界保健機関（World Health Organization、以下

^[1] 非定型肺炎：通常の細菌性肺炎とは異なる肺炎のこと。

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科E5／千葉大学大学院医学研究院 横手幸太郎が、中村洋教授のアドバイスを参考に、公開資料ならびに千葉大学医学部附属病院教職員へのインタビューに基づいて作成した。なお、本ケースは、クラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright © 横手幸太郎、中村 洋（2021年4月作成）